

脱炭素市民会議について

これまでの振り返り

真庭市の「脱炭素・SDGs」に向けた歩み



21世紀の真庭塾

地元の若手経営者等が集まり、地元地域の未来を考える組織を立ち上げ。1997年に、「2010年の真庭人の日」を報告。



バイオマス 産業都市に選定

・真庭バイオマス発電事業
・有機廃棄物資源化事業
など



生ごみ 資源化 事業開始



地域循環共生圏 プラットフォーム選定

第1回脱炭素先行 地域に選定



ゼロカーボンシティまにわ宣言

ゼロカーボンシティまにわ宣言

近年、地球温暖化が原因と見られる気候変動の影響により、日本各地で深刻な災害が頻発しています。平成30年7月豪雨では、岡山県下でも、本市を含む多くの住民の生命・財産を脅かす甚大な被害が発生しました。気候変動は、本市にとって対岸の火事ではなく、当事者として対策を講じなければならない喫緊の課題となっています。

気候変動以外にも、海洋プラスチック問題など、ただちに行動を起こさなければ手遅れとなる重大な環境問題が噴出しています。化石燃料に依存し、環境を犠牲にした豊かさの追求は、もはや限界を迎えています。

まさに、環境・経済・社会の三側面の課題に統合的に取り組むSDGsの発想への転換が必要であり、この地域を安心・安全で持続可能なものにしていくためにも、今、脱炭素を前提とするまにわに向かって舵を切っていかなければなりません。

SDGs未来都市・真庭市は、SDGs目標13「気候変動に具体的な対策を」の達成に向けて、豊富な森林や岡山三大河川旭川水系の豊かな水など、地域資源を活用した自然再生エネルギーによる地域エネルギー自給率100%を目指し、エコで災害にも強いまちづくりに取り組んでいます。

また、焼却ごみの削減を図る資源循環システムづくり、エコカー・自転車を活用したエコで健康な交通網づくり、市民・事業者と協働したカーボン・オフセットによる森づくり、「COOL CHOICE(買い選択)」の推進によるエシカルな行動ができる人づくりなど、ソフト・ハード両面で様々な脱炭素のまちづくりを進めています。

真庭市は、市民・事業者一体となり、これらの脱炭素のまちづくりを一層加速させ、2050年二酸化炭素排出実質ゼロ都市「ゼロカーボンシティまにわ」実現に向けた歩みを進めていくことをここに宣言します。

令和2年(2020年)3月17日



真庭市長

太田 昇

2050ゼロカーボンシティまにわに向けて

真庭市は、2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向けた取り組みを進めています。

自然再生エネルギーでゼロカーボン

【目指すべき方向性】

- 豊富な森林資源を活用した自然再生エネルギー自給率100%のまちをつくります。
- 再生可能な森づくりと木材産業クラスター構築により環境と経済の両立を図ります。

【R2年度実施予定事業】

- スマート林業による森林資源の効率的利用によるCO₂固定能力の最大化
- 地域マイクログリッドによる地域分散型エネルギー供給システム構築
- 広葉樹のバイオマス利用による循環利用の推進
- 持続可能な林業・木材産業経営の実現に向けた検討会開催



スマートムーブでゼロカーボン

【目指すべき方向性】

- EV等エコカーへの転換を図ります。
- 環境負荷の低い公共交通網をつくります。
- 日常の移動や観光での自転車活用を図り、エコで健康なまちづくりを進めます。

【R2年度実施予定事業】

- EV等エコカーを活用した過疎地域交通実証の開始
- 地域の足PHEV実証、グリーンスローモビリティ実証
- バイオマス発電所にEVステーション設置
- りんくろライン沿線に自転車ステーション設置



食と農でゼロカーボン

【目指すべき方向性】

- 地産地消でフードマイレージを低減します。
- 森川里海の連携で、人と自然の共生する農業を実現します。
- スマート農業技術フル活用して、農業による環境負荷を軽減します。

【R2年度実施予定事業】

- 真庭里海米の給食利用による地産地消・環境教育の推進(真庭食材の日)
- スマート農業の普及による減農薬・減化学肥料栽培の推進
- 生ごみ等資源化施設の事業推進と農業利用の拡大



くらしのなかでゼロカーボン

【目指すべき方向性】

- 省エネ製品や脱プラスチック製品等環境負荷の少ない製品の購買を促進します。
- 事業・生活でのモノの効率的な利用(シェア)を進めます。

【R2年度実施予定事業】

- 「COOL CHOICE(買い選択)」推進事業などによるエシカル消費の意識啓発
- マイボトルスポット、マイボックススポットの設置



2050
ゼロカーボン
シティ
まにわ

木を活かしてゼロカーボン

【目指すべき方向性】

- 真庭の山を守り、育て、木を活かします。
- 木について学ぶ場をつくり、木を活かす人を育てます。

【R2年度実施予定事業】

- CLTによる木造大規模建築の普及と建築士の育成
- 都市部の消費者に真庭の木材・木製品をPR
- 林業から木造建築までを一貫して学ぶ教育・研究施設の設置を岡山大学と検討



ゼロカーボンでおもてなし

【目指すべき方向性】

- 西日本有数の観光地・真庭高原をSDGsに沿った国立公園にします。
- 「住んでよし、訪れてよし」の持続可能な観光地域づくりを進めます。

【R2年度実施予定事業】

- 隈研吾氏設計のCLT建築物の移築とエコ・ビジネスセンターの設置
- 真山自然再生協議会(仮称)の設立を契機としたエコツーリズムの推進
- サステナブルをテーマとした真山ブランドの構築



※二酸化炭素排出実質ゼロ：CO₂などの温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と森林などの吸収源による除去量の均衡を達成すること

脱炭素に向けた市民会議

R4年度に5回、R5年度 3回＋番外編、R6年度3回＋番外編

やるべきことの
具体策



2050年の真庭市の姿

VISION

第1回

8/29 (32名)

国/市の施策と
市民が考える
市の将来の姿

第2回

9/28 (26名)

アンケート結果
共有とアクション
検討

第3回

10/27 (22名)

真庭の現状と各種
対策・事例紹介

第4回

12/14 (20名)

関係主体のア
クションと連携

第5回

2/9 (19名)

市への提言
案の検討

循環型社会 あたたかい 炭素 楽しめる 遊ばせる まかなえる 強い 困る おさまる 各人 泳げる 生かす 多い 豊か こまる 地域 うる 残る 仕事 優しい 暑い 環境に優しい 化石燃料 明るい 共生 減らす 小さい つながる 共生 自給自足 環境 森 少ない 孫 子ども 自然 健康 安心 創 食料 個人 魚 再生可能エネルギー 大切 出す川 頼る 平和 強い 庭 気 できる 長い 自給自足 環境 減らす 小さい つながる 共生

「2050 年に、真庭市
が真庭市として**存続**
してほしい」
(現役高校生)

真庭市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

Maniwa Civil Action

～みんなで挑む、シビれるアクション
地域をうるおす、ゼロエミッション～

2023年4月
真庭市



今年の市民会議では

✓ 脱炭素への挑戦！「真庭万博」

「万博」をキーワードに、脱炭素の取組を知る！

✓ さらに脱炭素の輪を広げよう

- ・民間企業はどんな脱炭素アクションに取り組んでいる？
- ・脱炭素の輪、どうやってひろげよう？
- ・教えて！みんなの脱炭素アクション

✓ 未来の世界をシミュレーションしてみよう！

カードゲーム「2050カーボンニュートラル」体験

行政・企業など、それぞれの組織の活動は、カーボンニュートラルにどう影響する？

真庭市地球温暖化対策実行計画（区域施策編） 取組指標①

目標達成のために2023年度から2030年度までの8年間に実施する事業

名称	2030年度目標	2024年度末現在の進捗
公共施設のLED化件数	176施設	市役所本庁舎等 27施設実施済
公共施設へ太陽光パネル設置件数	27施設	北房文化センター等 9施設実施済
公共施設のZEB又は省エネ化件数	18施設	生ごみ資源化施設等 17施設実施済
公用車（普通自動車）の次世代自動車化	全普通自動車	EV15台、PHEV3台、 ミニカー2台導入済
公共的施設へEV充電器整備数 （一般開放分）	2030年22台	普通10台、急速3台整備済
EVごみ収集車導入台数	1台	導入検討中
EVシェアリング台数	2台	0台
木質バイオマス発電施設整備数	1基	整備検討中

真庭市地球温暖化対策実行計画（区域施策編） 取組指標②

目標達成のために2023年度から2030年度までの8年間に実施する事業

名称	2030年度目標	2024年度末現在の進捗
生ごみ等資源化施設・液肥濃縮施設整備数	各1基	2025年1月～稼働中
既存のごみ焼却施設、し尿処理施設の数	3施設⇒1施設に統合	1施設に統合済み
新築住宅のZEH補助件数	80件	16件
市内事業者によるEV充電器設置補助件数	急速24基 普通160基	0件
可燃ごみの量	7,800トン/年	9,581トン (2024年度)
バイオ液肥利用農地面積	160ha/年	3.5ha (2024年度)
バイオマス燃料調達量	14万トン/年	10.8万トン (第13期決算ベース)